

常設展評価シート(1/3)

施設名	大阪市立自然史博物館		展覧会名	常設展示			
概要・実績	目的	<p>常設展示の展示メッセージをより多くの人に、多様な形で送り届けるために様々な普及教育行事を日常的に展示室内外で展開している。2,000年前後からは野外行事や室内実習だけでなく、展示フロアを活用した来館者サービスに取り組んできた。</p> <p>多くの参加者がプログラムを楽しみ、自然に対するあらたな視点を得ることに目的がある。サービスを受け学習するだけでなく、大阪自然史フェスティバルは、博物館で学んだり、博物館と連携する多くの自然関連団体が自らの活動や研究の成果を紹介するなど、「学習の発表の場」としての役割も大きい。これはボランティアにとっての他の行事でも同様である。</p>					
	会期	通年		会期	(自然史フェスティバルは11月17-18日)		
	主催	大阪市立自然史博物館・大阪自然史センター(大阪自然史フェスティバル)					
	共催・後援	共催 : なし		後援 : なし			
	協賛・助成	自然史フェスティバルには出展者からの協賛金などがあてられている。					
	観覧料	通常大人300円、 高大生200円	無料対象者	中学生以下と市内在住の65歳以上の方は無料			
	観覧者総数	ワークショップ	2,545人	フェスティバル	12,200人	出展団体数	55
	作品件数						
	関連事業	展示解説・講演会・講座・ワークショップ・野外観察・屋外ブース など					
	企画・実施	大阪市立自然史博物館・大阪自然史センターの共同開催					
成果	自然史フェスティバルでは二日間で12,200人の参加者を得た。ワークショップやジオラボも現状で適正な参加者状況と考えている。来場者、担い手ともに高い満足度を頂いているところである。						
補足事項	ワークショッププログラムなど有形/無形の資産が増え、アウトリーチなどでも活用されている。ワークショップや連携する団体の資質向上も効果大きい。参加した家族や出展団体が自然史のファンとなって今後将来にかけて更に学び、連携できることも大きな財産である。						

常設展評価シート(2/3)

施設名		大阪市立自然史博物館		展覧会名		常設展示			
定量評価	入場者数		予算	外部資金	総事業費	観覧料収入	その他収入	収入合計	図録販売数
	目標		230万円						
	実績		230万円	150万円					
	達成率		100.0%						
定性評価	実績・伝統の継承と新たな魅力創出	評価点	<ul style="list-style-type: none"> ・展示と多彩な教育普及事業により自然史や環境に関心をもつ多くの市民や機関・団体が集い、市民・博物館利用者が博物館という場を通して多様で、豊かなネットワークを形成していることを高く評価する。このことは、これからの博物館像を提示するものである。 ・広い視野に立った展示と地域に密着した展示や教育普及事業を絶妙のバランスで行っており、様々な人々に興味と関心を喚起する力をもっている博物館である。また、“職員の顔”がよく見える博物館であることも優れた特徴である。 						
		改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館と人、機関、団体を結びつける力は、長年にわたって、自然史博物館が培ってきた調査研究、展示、教育普及事業、市民と博物館を結びつける諸活動の成果と言える。予算や人の面で博物館にとって厳しい時代が更に続いていくことが予想されるが、博物館のもつ力を維持し、更に強化していくことを期待する。 ・開館してからかなりの年数が経過していることから、展示施設が古くなってきている。また、展示内容についても、自然史分野の新しい知見に対応した更新が必要になっている。新たに財政措置を伴うものであり、博物館の設置者である大阪市当局と十分協議して、博物館のアップデートに努めてほしい。 						
	さまざまな来館者への対応	評価点	<ul style="list-style-type: none"> ・「自然史フェスティバル」は、マンネリ化せずに、回を重ねるたびに創意工夫が見られる。地域、年齢、興味関心が異なる多様な入館者数を集客したことだけでなく、豊かなコミュニケーションの場になっており、来場者の満足度も高いことを評価したい。 ・博物館と入館者数だけの関係だけではなく、入館者とフェスティバルの出展者、入館者数相互、フェスティバルの関係者相互のコミュニケーションが深まっていく仕組みが構築されていることを評価したい。 						
		改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・事業が継続する中で伝統が生まれてくる。伝統が形成される中で、事業の固定化が進むおそれもある。新たに構築したものを更に維持・発展させていくことには多くの困難が伴う。マンネリ化せずに、事業が発展していくことを期待する。 						
連携による総合力の発揮	評価点	<ul style="list-style-type: none"> ・自然センター・友の会との連携の他に、大学、大阪周辺の自然関連団体など55団体との緊密な連携が図られていることに敬意を表したい。自然史博物館のもつ物、人、情報に関する広範なリソースの豊かさが連携の推進力となっている。 							
	改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な機関・団体との連携が可能になっているのは、自然史博物館の絶妙な立ち位置にあると考える。連携の源となっている力の根源を十分認識し、今後も強化して行ってほしい。 							
ニーズに即し効果的な事業展開	評価点	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な属性の入館者が、長時間楽しめる場所・空間を構築していることを評価したい。 							
	改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・人口構造の高齢化など日本社会の変化に伴い、入館者の求めるもの、博物館に期待するものが変化することも予想される。これまでの伝統を大事にしながら、同時に、新たなニーズにも敏感であってほしい。 							

常設展評価シート (3/3)

総評	評 価 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査研究、展示、教育普及事業, その他の博物館事業を一体として取り組む博物館の姿勢と事業終了後に入館者をフォローする姿勢を高く評価したい。また、博物館での学習に“楽しむ”要素を積極的に取り入れようとする取り組みも評価できる。
	改 善 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算が確保できず、事業の取り止めや縮小を余儀なくされている博物館が多い中、創意工夫して資金調達を行っていることに敬意を表したい。 <p>・ 本館の施設と展示については、老朽化がかなり進んでいる。本館の2階の一部は、リニューアルが行われているが、施設の大半は、老朽化と狭隘化により、子ども達や車椅子利用者等には展示物や解説パネル等が十分見えない箇所も多い。学芸員の工夫だけでは、手に負えない段階になっている。施設のリニューアルや展示の計画的な更新が“待ったなし”の状態になっている。指定管理者制度の中では、業務受託者としての大阪市博物館協会が果たすことができる役割は限定されると思うが、博物館の設置者である大阪市が適切な判断と対応が行えるよう、博物館の現状と課題を十分整理し、大阪市と緊密な連携を図って対応することを期待する。</p>